

私たちは、地域住民の心と身体を健康をささえる病院として
「こころのふれあい」を大切に、安心と満足、信頼を得られる医療を行います。

八幡青樹会病院 季刊広報誌

平成21年1月1日 発行
発行責任者 広報委員会
地域連携室

連絡先 医療社会事業課 0748-33-7104

青葉の風

第19号



皆様、新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、希望に満ちた2009年をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

昨年は、医師不足や救急診療について、医療を取り巻く様々な問題がクローズアップされた一年でした。そのような中、当院は良質な医療の提供の維持に向け、努力を続けてまいりました。本年は、保健、福祉の分野との更なる連携のなか、地域の皆様にご満足いただける病院を目指し、職員全員が一丸となって取り組み続ける所存でございます。本年も変わらぬご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

財団法人青樹会 八幡青樹会病院 院長 由利 和雄 職員 一同

長浜青樹会病院 増築工事竣工式が行われました 平成20年12月16日



昨年3月より進んでおりました長浜青樹会病院の増築工事が終了し、昨年12月16日に竣工式が行われました。最新の基準で建てられた院内は明るく清潔な雰囲気、病棟や周囲から、目の前に高くそびえる伊吹山が望めます。長浜青樹会病院は現在の八幡青樹会病院が、創設された6年後の1958年（昭和33年）に湖北長浜地域の精神疾患に対する拠点病院



として稼働し50年を迎えました。今回、外来、病棟、リハビリ部門などが拡充整備され、長浜青樹会病院、八幡青樹会病院の緊密な連携体制のなかで、より幅広く質の高い医療提供体制を目指すことが期待されています。

文化祭が開かれました

作業療法課 生活指導員 小川ゆち子



11月28日（金）29日（土）と2日間にかけて文化祭が催されました。模擬店では綿菓子やおしるこなど、7店舗が出店され、長蛇の列ができました。両日とも合わせて200名以上の患者さんや外来の方、職員で大盛況でした。また、外来では作品展示・作品コンクールが催され、入院患者の方やデイケアの方の陶芸や絵画、手芸品などが披露されました。芸術の秋、食欲の秋が堪能できた2日間でした。

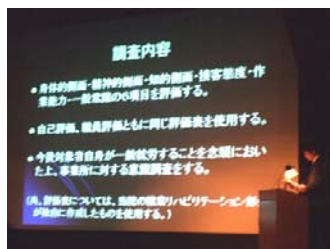
・・・ 文化祭に作品を出展され、受賞された患者さんの声です。

【金賞（絵画）】 いい気分転換ができました。ありがとうございました。 Mさん（デイケア）

【奨励賞（陶芸）】 陶芸たのしかったです。また作ってみたいと思いました。 Sさん（同）

恒例の研究発表会が盛大に開かれました。

研究発表部会 松川 賢



11月16日に財団法人青樹会研究発表会が、近江八幡市勤労者福祉センター（アクティ近江八幡）にて行われました。各分野における研究や改善活動を発表する場となり、今年で20回目を迎え盛大に開催することができました。八幡長浜両院より15演題の参加があり、その中から選抜された12演題が発表されました。今回の特別講演は、東京女子医科大学の諏訪茂樹先生をお招きし、

「スタッフを育てるコミュニケーション」というテーマでお話を頂きました。また、青年海外協力隊でサモア独立国に派遣された山崎看護師による報告も行われ、現地のダンスも披露して頂き、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。医療安全、患者サービス、経費削減、業務の効率化などに繋がるよう来年の発表に向けて研究心を忘れずに業務を遂行していきたいと思えます。



危機管理意識の高揚 初期消火大会・防犯講習会の参加

総務課 藤井 勝

職員の危機管理意識を高めるため、当院では定期的に防災訓練や、防犯講習を行っております。今年度は、東近江地域消防に当院から新人職員を中心に初期消火大会に出場しました。また、11月21日には近江八幡警察署の生活安全課より警察官2名をお招きし、病院周辺の地域での防犯活動の内容や、護身術を覚え、防犯意識を高めることができました。



こころのエッセイ

“アロワナ危機一髪” 診療放射線課 木村隆雄



私は、癒しを求めて2匹のアジアアロワナを飼育しています。それは俗に過金龍と紅龍と言われています。熱帯魚に詳しくない方には馴染みがないかもしれませんが、かなりメジャーな魚です。1匹数万円から1千万円する高価な魚ですが、私は以前1匹死なせてしまいました。そしてこの秋、私の不注意で、11年も飼った2匹目をまた死なせてしまいました。そこで再度アロワナを購入し、20cmほどの幼魚から育てることにしました。今度のアロワナは、ナイスプロポーションでとてもお気に入りでした。

飼育を始めて1週間後、事件はおきました。

日曜の朝、母親の「あるちゃんが大変や！」という悲鳴に驚き水槽に行くとアロワナが水槽を飛び出し床にダイビングしてはいませんか。すぐに拾い上げ水槽に入れましたが瀕死の状態、ヒレが骨折していました。そのまま放っておくとヒレの部分が奇形になるため、再び水槽より取り出しヒレを手術しました。手術が終わり水槽に戻されたアロワナは、まるで太刀魚の様に立ち、もうだめかと思うほどでした。



しかし、環境の変化に適応し、太古の時代から生き抜いてきた彼らは強かった。事故後1週間、ヒレこそないが元気に水槽を泳ぎまわっている。そのうちヒレも再生し、私たち家族に再び癒しを与えてくれるであろう。私の脳裏には、死んでしまった2匹目のアロワナの迫力ある姿が残っている。出会いと別れ・・・アロワナ飼育も人生そのものである。魚たちにもよき一生を与えてやりたい。

